



2017年10月
第68号

☎ 111-0052
東京都台東区柳橋2-22-3
ウェスレアン・ホーリネス
神学院
☎ 03-3851-3762
FAX 03-3851-3858
振替口座番号
00130-4-364534
名義 ウェスレアン・ホーリネス神学院
発行人 本間義信
編集人 文カンホ
後藤貴子
印刷所 ヨ ベル

「多くの献身者が起こされるように！」

淀橋教会主管牧師 峯野龍弘



2017年も夏の夏期派遣を終えて、学生たちは教場に復帰し、再び後期授業に励んでいます。教師陣も学生たちと共に教場に復帰し、日々宣教と牧会の主務に勤しみながらも、日本宣教と教会形成の将来を、いやのみならず世界宣教の未来をしっかりと担ってくれるであろう学生諸君を育成するため、祈りをもつて励み教鞭を執っています。

ご周知のように本学院は、小規模ながらほぼ毎年のように卒業生を輩出し、国内外の諸教会並びに宣教地に人材を送り出して来ることが出来ました。これ

は直接伝道献身者が減少し、諸教団の中には神学校を閉鎖しなければならぬような厳しい状況を迎えている今日、このような神学校事情の中にあつて、決して過小評価されてはならない、むしろ大いに感謝しなければならぬ。とこまることになったので

5月6日にウェスレン・ホーリネスの信仰に立つ超教派神学校として創設されました。ちなみにその頃、日本キリスト教団の中に生じた教団紛争が原因となり、当時お互いが帰属していた教団

内同志団体の内にも、対教団問題を巡って大きな見解の相違が生じ、その結果悲しくも予期しなかつた団体内の分離が起こり、新たに「ホーリネスの群れ教会連合」並びに「ホーリネス福音同志会」の二つの新興グループ

の誕生となりました。この両者はほぼ同一見解に立っていました。前者は日本キリスト教団そのものからも離脱するようになり、後者はなおしばらく教団内にとどまることになったので事について、それまで共に歩んで来た東京聖書学校の教鞭を執っていた前二者に属する教師たちが、継続して教鞭を執り続けることが不可能となり、同学校を離れることとなりました。その時同時にこれらの教師を募り、同じ見解に立脚する大多数

の学生たちも、悲しみの内に各自自主的に退学することとなりました。しかしながらこのような紛争のゆえに巻き添えを受け、退学するようになった前途有為な学生たちの献身の道を閉ざすことは断じて忍び難く、深い祈りと熟考の末、遂にそこに誕生したのが「ウェスレアン・ホーリネス神学院」なのでした。

爾来、明年で創立30周年を迎えますが、この間卒業並びに修業して伝道戦線に巣立つて行った伝道者の数は、75名にも上ります。何と言う素晴らしい恵みでしょうか！ただただ「大いなるくすしき御業をなされる主は、ほむべきかな！」と心からの賛美と感謝を主に捧げる以外にありません。

そうこうしている内に間もなく明年の創立30周年の記念すべき祝賀の時が、巡ってまいります。お互いは如何にしてその祝賀の時を祝つたらよいのでしょうか。それは何よりも全国各地の教団諸教会から、多くの直接伝道献身者を本学院に送り込んでいただくことではないでしょ

うか！どうか皆様の諸教会の
日毎の祈りに覚えてご加禱く
ださい。是非、明年も一人でも
多くの献身者が起こされます
ように！

◆神学院夏期派遣報告◆

◆学生最後の夏期派遣

神学科四年 岡 恵美

7月25日から31日、茅野・駒
ヶ根キャラバンへ黄さんと行っ
て参りました。茅野キリスト教
会には、アメリカからのミッシヨ
ンチームが遣わされており、幼
稚園から小学生対象の英語体験
キャンプで共に奉仕させていた
だきました。教会に初めて来た
子どもたちが、御言葉に真剣に
聞き、応答する姿に感動しまし
た。駒ヶ根・パノラマ・エルシオン
チャペルでは、ゴスペルキャン
プが行われ、聖日は松本グレイ
スクワイアの方々も共に礼拝を
ささげました。桑原信子先生の



メッセージ、黄さんの証し、教
会の方々と交わり、神様の愛と
臨在にあふれたひとときでした。

8月14日から16日、淀橋教会
の小学科のCSキャンプに参加
しました。共に楽しい時間を過
ごし、祈る中で、少しずつ子ど
もたちの心が開かれていくのを
感じました。2日目の夜、救い
の証しをさせていただきまし
た。幼い日にイエス様と出会い、イ
エス様に導かれていく人生がど
んなに素晴らしいものであるか、

神様が与えてくださった恵みを
思い起こし、分かち合いました。
8月25日から27日、上天岡キ
リスト教会へ。私の今年度の派
遣教会ですが、平日行くのは初
めてでした。保育園の仕事や建
物の管理をなさりながら教会さ
れている先生の姿に触れ、感謝
でした。道行く人々に、聖日の
子ども会（パフェパーティー）の
チラシを一枚一枚手渡ししまし
た。チラシを受け取られた方
の中から、5名の方が初めて教会
にいらしたことは、大きな喜
びでした。礼拝でのメッセー
ジのご用も守られました。お
祈りを感謝します。

◆最終学年の夏期派遣

神学科四年 長谷川 鐘大

今年の夏期派遣は、九十九里
みぎわ教会と浅草橋教会夏期
修養会の2か所となりました。
九十九里は東大病院研修中に
勤務したことがあり、すべてが
主の導きだったことを思わされ
ました。

4年生の岡 恵美さんと共に、

近くの旭キリスト教会、片貝幼
稚園、介護施設マナ、訪問介護
施設みぎわにも行き、主にある
多くの兄弟姉妹と主の恵みを分
かち合いました。初日は近所に
教会案内のパンフレット配布し、
教会設立のきっかけとなった片
貝幼稚園を訪ねました。聖日礼
拝では、ヨハネの福音書4章か
ら「教会生活と信仰の成長」と
題してメッセージをさせて頂き、
また介護施設や教会にて医療講
演を行いました。



また8月13日から3日間、浅草橋教会夏期修養会が河口湖・富士カームで行われました。今年も百人を超える参加者が与えられ、「キリストの愛を実践するコイノニア」をテーマに、講義や早天礼拝、キャンプファイヤー、レクリエーション、ミニコンサートなど多くのプログラムでコイノニアを学ぶ場となりました。主題聖句「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることを皆が知るようになる。」(ヨハネによる福音書13・35)から山崎忍先生の3回に渡る講義があり、学びの後はいつものようにグループに分かれて交わりをし、今年は特に、コイノニアの実践の場となりました。早天礼拝では、「教会生活とコイノニア」と題して、シヨートメツセージをさせていただきますました。

愛の本質であるイエス様が心の真ん中におられるように切に祈ります。

◆夏期派遣の恵み

神学科三生 黄雪琴

祈りの内に導かれた今年の夏期派遣は延べ11教会を訪ねることになり、各地にある教会からたくさんの方を学び、多くの方に祈っていただき、恵みの内に終わりました。

個人派遣として、初めて「紀泉台ウエスレーチャペル」、「コイノニア・クリスチャンチャーチ」、「三島西キリスト教会」を奉仕で



訪ね、ベテランの先生方から貴重なお話を伺いました。岡田照子先生から御前での献身生活を貫くために、悔い改めとホーリネス体験の大切さを丁寧に教えていただきました。松下先生は神様の臨在の中で常に主と親しい交わりを持ち、心の余裕を保ち続けることに心掛ける大切さを心を込めて指導してくださいました。吉田先生は主に仕えることの喜びと楽しみ、ユニークさを持つことのすばらしさを伝えてくださいました。

主な奉仕は紀泉台ウエスレーチャペルでは子どもキャンプのお手伝い、子ども会のメツセージ、祈祷会の証メツセージ、中国語入門クラスでした。コイノニア・クリスチャンチャーチでは礼拝メツセージ、愛餐会とファミリーコンサートへの参加でした。三島西キリスト教会では礼拝メツセージ、愛餐会とハレルヤコーラスの参加でした。

自分自身の体験と聖書から「サマリアの女」の話を何回か語る機会を与えられ、話す度

ごとに、私自身が主の大きな憐れみに感動しました。日本語がたどたどしいこの私に、神様は日本語で福音を語る恵みを与えてくださって、感謝です。

聖霊の働きを私自身の中で、また各教会でなされたことを通して体験した夏でした。主の恵みは弱い私に十二分でありました。

◆三年目の夏期派遣

神学科三年 堀部舜

■淀橋教会・サマーフェスタ

柳、黄、堀部の3名で奉仕しました。出身教会で4ヶ月ぶりの奉仕で、温かい交わりに励まされました。裏方で動き回る4日間で、精一杯仕える大切さと楽しさを感じました。祈られて祈られて、準備を重ねて備えられた集会の恵みの豊かさを学びました。一人一人が愛の労苦を担い、全体が生き生きと動き出しつつあるように感じました。

■境の谷めぐみ教会・子ども会

聖日派遣先でもありますが、

子ども会が二回持たれました。毎週の日曜学校ではゆつくり交われない子どもたちと共に楽しみ、夏休みの宿題も一緒にして、親しくなれました。毎週の交わりの中で、少しでも心に届き、主の恵みが残るように、工夫していきたいです。

■山形南部教会

教会員一人一人が、課題はあっても、日々御言葉に生き、証しする姿が心に残りました。多くの子どもが礼拝や祈禱会に来て、



思いきり遊び、真剣に祈り、青年たちが奉仕している姿に御名を崇めました。教団の岩沼キャラバンでは、教派を越えた美しい宣教協力があり、被災者の方々の感謝と深い信頼を感じました。確かな御業を感じ、地道で骨の折れる働きに頭が下がりましたが、復興支援から宣教に繋がる美しい姿を見ることができました。また、長い祈りの末に与えられた新会堂を見て、多くの証しを聞き、神の業は祈りによって進むということが深く心に残りました。

■総括

今年は全ての派遣先で上級生として奉仕し、将来伝道者として立つ時の責任を感じた気がします。背後で執り成して下さった愛する方々の支えを深く覚え、感謝しています。

◆浅草橋教会、東京若枝教会

神学科二年 下田真行

この夏、浅草橋教会の聖日礼拝から修養会まで参加させ



みは、神様の栄光がこの弱さを通して現れるためであるという事を改めて覚えて、神様に感謝をおささげしました。

若枝教会は母教会であり、神学生としては2年目になります。神学生として何か結果を残さなければならぬと思いい、私は少し焦っていました。そんな中で突然、集会の賛美中に、涙がこみ上げてきました。こんなに醜い、自分勝手に罪深い私のような者のためにもイエス様は死んでくれた、という感動が押し寄せてきました。涙を堪えつつ分級で担当の男の子とメッセージ後の分かち合いをした時、聖霊の力強い後押しを感じ、彼の心は開かれ、初めて神様を受け入れる決心をする姿を見て、神様の力を目の当たりにしました。

◆ひばりが丘北教会と遠州キリスト教会・浜松ウエスレアン教会派遣報告

神学科一年 桑原晴美

する機会をいただいて、神様が私に与えてくださった弱さや痛

8月11日から13日までのひば



りが丘北教会の派遣では奥多摩福音の家でのジョイフルキャンプ(1泊)に参加させていただきま

した。参加された全員が親族なのではと思わせる暖かさがあり、私も救いの証しをさせていただきましたが、信徒の方達とのお交わりの中で様々な信仰の歩みを聞かせていただき、神様が一人一人を特別に愛しておられる事を感じました。

24日から27日までの遠州キリスト教会・浜松ウエスレアン教

会派遣は黄さんと二人で行かせていただきました。

一番衝撃を受けたのは聖隷事業団の施設を訪問させていただいた際、体が不自由で言葉を話す事も大変な方が、私達神学生の為に祈って下さった事でした。振り絞る様な声でこの者の為に祈って下さる、それは謙遜な思いにさせられた感謝な時でした。また牧師先生の「聖書を読んで祈ること」とシンプルにしゃべった言葉が心に強く残りました。

浜松ウエスレアン教会には最終日、遠州での奉仕後に行かせていただき只々もてなしていただきました。

この派遣で一番の恵みは先生方を初めとして大人も子どもも同じ神様を信じる一人一人と出会えた事です。来年の派遣に向けて共に成長出来ます様に祈ります。

◆旭キリスト教会、

塩釜ともしび教会の派遣報告

神学科一年 柳 泰鉉

私は、7月21日から25日ま



ことが初めてだったのでとても緊張しましたが、皆さんが優しく教えてくださったので、感謝でした。

また8月19日から22日まで、2年生の下田さんと一緒に、塩釜ともしび教会に行きました。優しい村島先生ご夫妻と出会い、聖日礼拝では初めて講壇に立つて、証しをさせていただきました。

で、3年生の堀部さんと一緒に旭キリスト教会の夏期派遣に行きました。林部先生ご夫妻、愛十くんの優しい歓迎を受け、子供会が始まりました。多くの子供たちとあまり接したことがなかったのが最初は心配しましたが、皆素直だったので楽しく奉仕できました。聖日礼拝では湯澤先生が御用をされ、私はギターの奏楽をさせていただきました。

礼拝後、私と堀部さんが作ったカレーを教会の皆さんが美味しく食べてくださって嬉しかったです。私にとって、全ての

愛餐会は本当に皆さんが家族のような感じだったので、楽しく交わることができました。その後、岩沼チャペルに行き、コンサートやパーベキュー等のプログラムもありました。そこで出会った朴先生ご夫妻、村島先生ご夫妻のお働きを見、また様々な奉仕を通して、自分の成長や恵みを感じて感謝でした。



◆退修会報告

教務主任 本間尊広

今年も9月5日～7日の日程で、長野県佐久市にある信州バイブルキャンプを会場に退修会が行われました。マネージャーご夫妻による温かいおもてなしと、おいしいお食事をいただいで、ゆったりとした雰囲気の中で、学び、祈り、交わる時間を持つことができました。

退修会は、日常の務めから静



まることのできる場所へと退き、

靈修の学びと祈りによって、夏期派遣伝道を振り返り、2学期からの学びに備えるために毎年行われています。テキストから学び、学生の夏期派遣伝道の報告を聞き、最後に聖別会で主のお取り扱いを受けて、学びの場へと帰っていきます。今年も、ある英国の説教者著『主よ、みこころを教えてください』を学びました。キリストに全く明け渡すことが改めて問われた学びでした。

プログラムの合間や、食事の時間、また学年ごとの交わりの時間や、外出・散策の時間を通して、教室だけでは得られない学生・教師間の交わりの深まりも与えられて感謝でした。今は懐古園となっている小諸城址が近く、公園内にある動物園や、島崎藤村記念館を見学する機会が与えられ、感謝な時間を持つことができました。

◆編集後記◆

神学院のためにお祈りとお支えを心から感謝します。7月の関東夏期聖会から始まった夏期伝道期間も祝され、学生たちは、貴重な訓練の場を与えられ、それぞれが霊的に成長する日々を送ることができました。学生たちを快く受け入れ、伝道の機会をお与えくださいました諸教会の先生方、信徒の皆様から心から感謝いたします。

8月の夏の働きが祝され守られ、9月には5日～7日の日程で、長野県佐久市にある信州バイブルキャンプを会場にて退修会が行われ、教師と学生の更なる交わりが与えられ、共に霊的成長の時間を持たれました。また9月15日ウエスレアンホーリネス神学院特別講義が向島キリスト教会の加藤恵司牧師により行われました。「キリスト教と法」と題して講演が行われ、良き学びの時となりました。

神学院便り第68号では、神学院理事で、淀橋教会主管牧師の

峯野龍弘先生の巻頭言、在校生による夏期伝道の恵みの報告、神学院教務の本間尊広先生の退修会の報告、そして、献金者一覧を掲載いたしました。

現在、夏期伝道、退修会後前期特講を経て、後期の授業が始まってまいります。4年生はいよいよ、卒論の一時提出を終え仕上げに取り組みながら、教師試験へと備えてまいります。

そして信徒献身者として学びを得ている、文元愛子神学生はしばらく休養を取っていました。共に退修会に参加し、今年2年生として後期の学びを続けられています。

11月には、第一回神学院入試が控えております。一人でも多くの入学者が与えられるように、来年3月には2名の卒業生が伝道場に遣わされます。2名以上の新入生が与えられますようにお祈り下さい。また在校生それぞれに霊性、健康が守られ、後期の学びが祝されますように、また指導する教師の健康が支えられますようにお祈りください。



ウェスレアン・ホーリネス神学院 入試要綱

受験資格

- 大学・短大卒業もしくはそれと同等の学力を有すると認められた者
- プロテスタント教会に所属し、受洗後2年以上の者
- 専心宣教牧会の業に仕える明確な召命感をもち、このために献身し、牧師の推薦を受けている者

受験手続き

以下の書類を整え、本学院事務所に郵送または持参してください。なお神学院所定の用紙はホームページにもありますので取り寄せてください(①～⑤は学院所定)

①入学願書 ②履歴書 ③信仰歴 ④所属教会牧師の推薦状 ⑤召命に関する短文(400字×3枚程度) ⑥最終学校卒業証明書 ⑦同成績証明書 ⑧健康診断書

1. 入学試験日

第1回	2017年	11月	21日(火)	試験科目: 聖書、英語、ホーリネス
第2回	2018年	2月	6日(火)	試験科目: 聖書、英語、ホーリネス
第3回	2018年	3月	6日(火)	試験科目: 聖書、英語、ホーリネス

2. 願書提出締切

試験日の2週間前までに提出して下さい。

3. 受験料2万円

願書と一緒に支払い下さい。

4. 全寮制

本学院は全寮制です。特別の事由のある場合には、通学もできます。寮から本学院までの交通費は通学事由が適当と認められた場合には援助します。また授業のある日の昼食は後援会等が援助しています。

5. 給費制・貸与制度

授業料、寮費、食費等の給付を受けることができます。また、事情を具して願い出て承認を受けた者は授業料、寮費、食費等についてそれぞれの必要に応じて貸与を受けることができます。

6. 学費・寮費

入学金	50,000円	授業料	年額	230,000円	
寮費	月額	5,000円	食費	月額	15,000円

●上記の外に研修費・教材費があります。

※寮費・食費はその時の事情で変動することがあります。

ウェスレアン・ホーリネス神学院

連絡先: 〒111-0052 東京都台東区柳橋2-22-3 TEL 03(3851)3762